

# 第1学年 国語科「おかゆのおなべ」

## ◆本時の指導（第1時／全6時間）



### (1) 本時の目標

「おかゆのおなべ」を読み、物語に出てくる登場人物や内容の大体を捉えて読むことができる。

### (2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 「おかゆのおなべ」の読み聞かせを聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">「おかゆのおなべ」は、どんなおはなしかたしかめよう。</div>	・ 教師の範読を聞き、物語の大体を捉える。
展開	2 内容の大体を確かめる。 ・ ワークシートを使って、内容を整理する。  3 読後の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物と、その人物がしたことが書いてあるところを探し、ワークシートに記入させる。</li> <li>・ 起きた事件とその解決の仕方の二つに着目させ、内容を整理しやすくする。</li> <li>・ 「おもしろかったところ」や「好きなところ」など、感想の観点を示す。</li> <li>・ 感想を書くのが難しい児童には、感想が書けている児童に発表させ、どのようなことを書けばいいのかを示す。</li> </ul> <p>★「おかゆのおなべ」を読んで、自分なりの感想をもつことができる。</p>  <p>◇「おかゆのおなべ」を読んで、自分なりの感想を持ち、文章に書くことができる。</p>
まとめ	4 本時の振り返りをする。	・ 書いた感想について、次時で友達と感想を伝え合うことを確認する。

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

範読は前時で行っていたので、学級全員で音読をした。全員で声を出すことで、学習に向かう姿勢を作ることができた。感想を書く前に、何人かの児童に感想を聞いて、感想をもつのが難しい児童にも友達の意見から、自分の思いをもてるようにしたのが効果的だった。お話の中の不思議な部分、疑問点を上げる児童が多く、次時以降につながる感想を書いている児童も多かった。

### 【課題】

読後の感想を書く時間は、次時に計画を立てればよかった。内容理解の時間を十分に時間を確保することで、友達の気持ちを聴く、伝える時間につながるのではないかと考える。



# 第1学年 算数科「どんなけいさんになるのかな」

◆本時の指導（第1時／全3時間）



## (2) 本時の目標

加法や減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。

## (2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 教科書の絵を見て、どんな場面か話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">えをみて、けいさんのしかたをかんがえよう。</div>	・絵を見て、問題も読む。
展開	2 問題①を読み、不足している言葉や課題を考え、問題文を完成させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">①おすのらいおんとめすのらいおんは、みんなでなんとういますか。</div> 3 問題文を読み、どんな式を作ればよいのか考える。 4 立式の根拠を発表し、その根拠を説明する。 5 問題②も同じように取り組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">②おやのしまうまとこどものしまうまでは、どちらがなんとうおおいでしょう。</div>	・教科書に書いてある文章だけでは、問題を解けないことに気付かせ、不足している言葉や数を絵から見つけるように促す。 ★問題を解くための見通しをもつことができる。 ・不足している言葉や数を補い、加法なのか減法なのかを考えさせる。問題文や絵から場面を読み取って式をたてる。 ・立式の根拠となる言葉に注目させる。 ★立式の根拠を発表することができる。 ◇既習を活用して、どのような式で解決すればよいかを考えようとしている。（発言・ノート）
まとめ	4 加法や減法の場合についてまとめる。	・合併や増加の場面では加法を適用すること、求残や求補、求差の場面では減法を適用することを、言葉や具体的な操作と結び付けて押さえる。

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

繰り上がりと繰り下がりのある加減法の学習のまとめとして行った。そのため、計算方法の復習と、児童が苦手とする文章問題のまとめとしても有効だった。

### 【課題】

不足している言葉や数を考えることが最初は難しかった。問題数を重ねていくうちに、どの数と言葉が必要なのか考えることができるようになっていった。立式については、加法と減法が交互に出てくると、立ち止まって考える必要があるため、難しい児童も見られた。既習を生かして場面絵と言葉（キーワード）から考えさせていくことが必要である。

# 第1学年 生活科「かぞくにここに大きくせん」

◆本時の指導（第4時/全10時間）



## (1)本時の目標

家族が喜ぶことを考え、自分の役割に気付き、自分でできそうな仕事に繰り返し取り組むことができるようにする。

## (2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時までの学習を振り返る。	・前回までの学習で、家族の人は、家族のためにたくさんのお手伝いをしていることに気付き、「家族のためにお手伝いをしたい」という思いになったことを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         にここに大きくせんーかぞくのためにできることを考えよう。                     </div>
展開	2 自分でできそうなことや、やってみたい家の仕事を考える。  3 家族のために行いたいことを決める。（ワークシートに記入する）	★前時までの学習（発表や交流活動）を基に考えさせる。また、単発で終わるお手伝いではなく、継続的に行うことを伝える。その上で自分でもできそうなことを考えさせる。  ・何を行うか迷っている児童の参考になるように、複数名に考えを発表させる。 ◇自分でできることや自分の役割に気付いている。（発言分析、行動観察） ・家族の一員としてすすんで仕事に取り組もうとする。
まとめ	4 自分のめあてを決め、発表する。	・決めたことを伝え合うことで、頑張ろうとする気持ちを高めていく。

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

前時までに、家族の一日や仕事について調べる活動や自分と家族の1日の過ごし方について比べる活動をしっかり行ったことで、児童の「家族のためにお手伝いをしたい」という思いが高まった状態で本時を行うことができた。そのため、本時では、児童が意欲をもって家族のために何ができるのかを一生懸命に考える姿を見ることができた。

### 【課題】

ワークシートの活用や振り返りの行い方に課題が残る。帰りの会などで、振り返りの時間を短時間でも設け、友達の手組みを知ったり、自分の手組みを紹介したりすることで、より意欲を高めていく必要がある。